

平成 20 年度「下水道分野における環境教育の推進に関する懇談会」
議論のポイント

<基本的考え方>

- ・ 知識伝達型ではなく、子ども達自身が気づき、学び、興味を持つための手助けをする。
- ・ 子ども達に下水道に関する職業に就いてもらいたいという考え方が重要。
- ・ 一般に認知度の低い「見えない下水道」を「見える化」する。
- ・ 下水道のシステムが浸水対策と汚水処理を軸に都市の暮らしを支えていることについて基本的な理解を得る。
- ・ 命を支える「水」という観点から、下水道だけではなく上水道や河川とも関連づけて、水循環という視点で下水道の役割を理解してもらおう。

<枠組みについて>

- ・ 計画に沿って必ず実行される各教科・単元をメインターゲットにし、特定の単元において利用可能な教材とする。
- ・ 下水道については教員にもほとんど理解されていないことから、まずは教員に下水道を理解して頂く必要がある。
- ・ 最初のターゲットとして、意欲・経験のある教員を対象に指導案を作成してもらい、モデルプログラムとして実施し、次の段階で一般に広げていくという 2 段階方式での普及を図ることが効果的である。

<教員研修について>

- ・ 夏休み期間中に実施される教員研修の場を利用して、下水道分野の理解を深めて頂きながら、指導案を共同で作成するワークショップを行うことが効果的である。
- ・ 下水処理施設等の現場見学を含めた体験型の研修を行うことが効果的である。
- ・ 行政が各教科・単元と下水道とのかかわりを示した上で、具体的な指導案の作成に当たっては教員が中心となって作成してもらおうのが効果的である。
- ・ 参加していただいた教員に、即授業に使えるような素材を CD などとして提供するとよい。さらに、環境教育に対する助成金のような仕組みがあるとよい。